

農稼業史

五

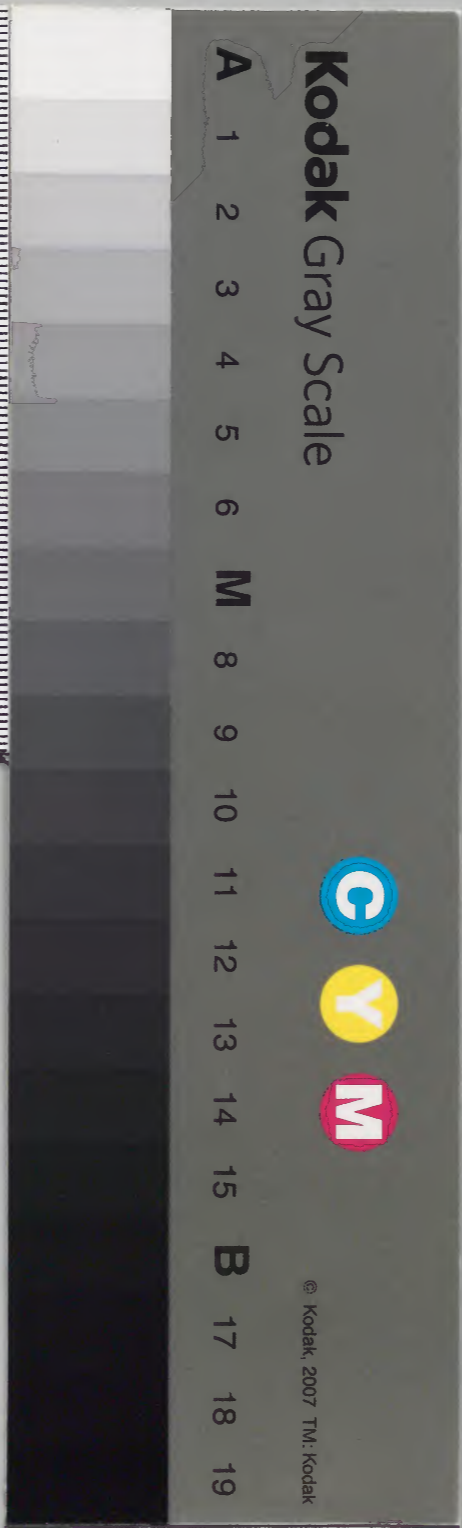
農商省
和圖書
第八二九號
共五冊

大政官文庫
和書門
八二四
七四三
九六六
七
冊架函號類

內閣文庫
和
八二
三函

內閣文庫	
番號	和 8247
冊數	5 (5)
函號	183 90

耕種



雲の事英去湖

核子芽とまきり葉生まれば蟻すれ又海とも云て
 細うららき情ぬおうぎくびりふも生じ是地よ
 毒氣と合じり又毒のまっけつよけまむと云
 不吹もかたし生じど熱めて古を地中の熱氣
 と空中の蒸より生じらるるまうまうまう
 おもはれと國所の風氣もよまきど多くと西風
 のまきど賦し東風吹あばらんおわらふとわらう
 を此法ともやと一是よは書まは来と抑意ふ

農家集

卷之三

三

糞より出 多く入並くびく用いてより又其中の
 汚糞とをいかに出いつくやくまう苗能生育とど
 但小収一畝と八九 又畝の多き年と其糞を糞液濃く糞
 二畝とてより此糞より出自然ふるべし又
 麦と蒔く後ふりとり生ると此中砂畑の或く
 乾地苗生長のりきう或ハ苗消えたり耐性など
 の者小生ると是葉をわけて害をらぬ故ふるめりと
 りみ粒米粒などわけて首茶をとりてお根を
 帯に糞の面より付日中より飛入り又答ふし

出入りともいへりて青虫とて二種の生れ
 但し古地より少く砂畑の風をたけりきう湿り
 早もとの地中の熱もさうなるべしとて砂畑
 の両階個十分よやく空中蒸れ地中をよやく
 蒸れ熱気はよやくなり又水やしも蒸れとふく
 天陽と交蒸層らんとてそれ時をばくし
 水と交蒸層らんとて是と生むるなり其初十分は
 熱もさうなり又早漬がりの細もやけけ

虫生ぜび縦まきどもたのびうり減らるれり
 け虫二種とも元苔の中ふまきう後喰切虫成虫
 して又桃の冷いやうく大に害をさる但苔のうに
 針う刺し程の疵けり毛より喰出ふなり細
 ううことりい其色虎斑なり故ふれを名はく
 ばどめをむて細く後二葉をふらる指して打てるふ
 和ううなり又青とりい多るどこの細うかは虫れ
 ぶしより長さ四入をうりをはめしきうり
 成長ふまきうり葉を小葉一後一寸余もあり

下を桃をまきい喰入なり此虫桃を喰ふる天虫
 の葉を食ふむりうう程虫まき生ぜび
 ども害をさるあしううこに倍せり若き葉の
 虫生ぜんとやうり葉よ是又蕎麦わくと多く
 野毒よ入置らむいく用いさきバ毒の去りる
 虫うりやう又生トハ若棟の枝葉とすうだ
 を水よ浸し並但若棟大一部根若参よく葉
 出し冷し並を加へてまきうりきうて四五日
 うてバ虫あうりく去るし但日中にうり

農家業書

中草棉附

七

前旬の考並草棉地畦刻

草棉の前旬とづきの農書にも八十八夜或は
 妻れ出用をかけて一日も早く前下と作り出さ
 せお隣して珠を弾がごとく予が祖父ハ八十八夜
 おんを同高として其高を年の陽氣ふまうがし
 らやく前下と記せしむ是をせよ作る所此
 考妻しと之も又是をせよ作る所此
 けれ他人ふありけ考疎くもこの陽氣よ
 るとつて次作を年の節を同高として終りを前下

くやるといだけ冷いとして生人がくく入る前下後ま
 進ませぬおかりてい後生れ気強く尚よく生立上
 葉へ枝系もまきども取実とくやぐ大に損なり
 扱よ今一ツの考と爰よ出ぬ前下前の考後前
 旬上時の遅速と麦のひねやと考へて一掃所
 めるやハけ考をせよととらるり其年の陽氣よくて
 麦そのく下葉はせいさぶ青くとしてわくば先
 見合麦の株をに植延びく植先の實少喰出し
 白く見ゆら後前旬の上時ととべ一気と目高し

て種子を耐ば種あう生育さべし又麦はさびね
 ざらにこの耐ば種さく生育さるる又一つは種わり
 天をよけさば種さあしんぬもぬきさば麦のあく
 流さくさきさなるる又かき人消やとね種まを
 耐く後種さく種いさきさ芽ときり種まさき
 かもさ耐りしゆいさく早はけ芽ときりかぬ家
 どのやうに種まをいさきさ芽ときりさるるに水を灌ぐ
 地かさまりて大お悪しぬぬさくも時芽のさあ
 芽ときりさく出人とさるるに耐ば種さく水と灌地

さうりさるるさびべし但目に水とさくま及さび
 唯さうりけちさばすいさあさるるさけさくさ乾
 かさまりあさば芽と切生出人とさるる改つげか
 あしびびさるる消るるのわり生し種まをば目に
 心と用いべし又芽ときりさあさるるにさるる種ま
 砂畑の水とさげば芽さるるをれさくかりて枯るさり
 肌糞よ小便をささるる水とせさるるも種ま芽
 とさり養生さるるさ唯地力を得る自然よ養生さる
 苗はさるるに種まをさるるに種ま地種割のさ

又棉わた不なくくその法やうふくたくもなふりてい毛けよ
 遠とほいふ風かぜの強もまの強ぐく又い畦しの廣狭せまめめ
 損とん法はのあとちをばなな同どと水をきりしむむ
 畦し幅はを本の盛長ながけしりしと其地ち小こりて了り了り
 りべ一い畦し一い二に寸すんのあぢぢめめも一反はんの中に被
 是これ角の遠とるべし角かく木きの盛長なが枝えの葉よ
 魚いト魚廣ひろきの狭せまめめ又狭きの廣ひろくしづきを種らいと
 としべし且かつ畦しを割とし何なんもも多おほくし行いかて
 人ひとと取繩しを張筋しを付く畦を定むる是これの葉は

是これの葉はもたの間にぬめをおしりし尺しゃくを
 とりの畦を定むるたらばも多おほくし行いかて
 あぢ地ぢ小こも出来きずし畦しうちをおもろくし
 是これの葉はもたの間にぬめをおしりし尺しゃくを
 魚いト魚廣ひろきの狭せまめめ又狭きの廣ひろくしづきを種らいと
 としべし且かつ畦しを割とし何なんもも多おほくし行いかて
 人ひとと取繩しを張筋しを付く畦を定むる是これの葉は

追刻目録

○五穀類 十三種

○三草類 五種

○菜の類 山野菜類 三十五種

右の内大麦小麦。青蘿蔔。菜。五種ハ。おのく。唯雄の園をわらう。あざこハ。虫。付。ぎの。御。茶。ま。つ。て。う。た。も。そ。加。子。は。ひ。り。子。ま。り。ま。り。は。ふ。ま。生。ま。り。の。外。づ。も。唯。雄。の。え。い。び。ふ。ま。り。は。わ。ら。う。の。れ。を。條。下。に。園。画。を。つ。く。を。一。一。決。

中之卷 艸棉作附録

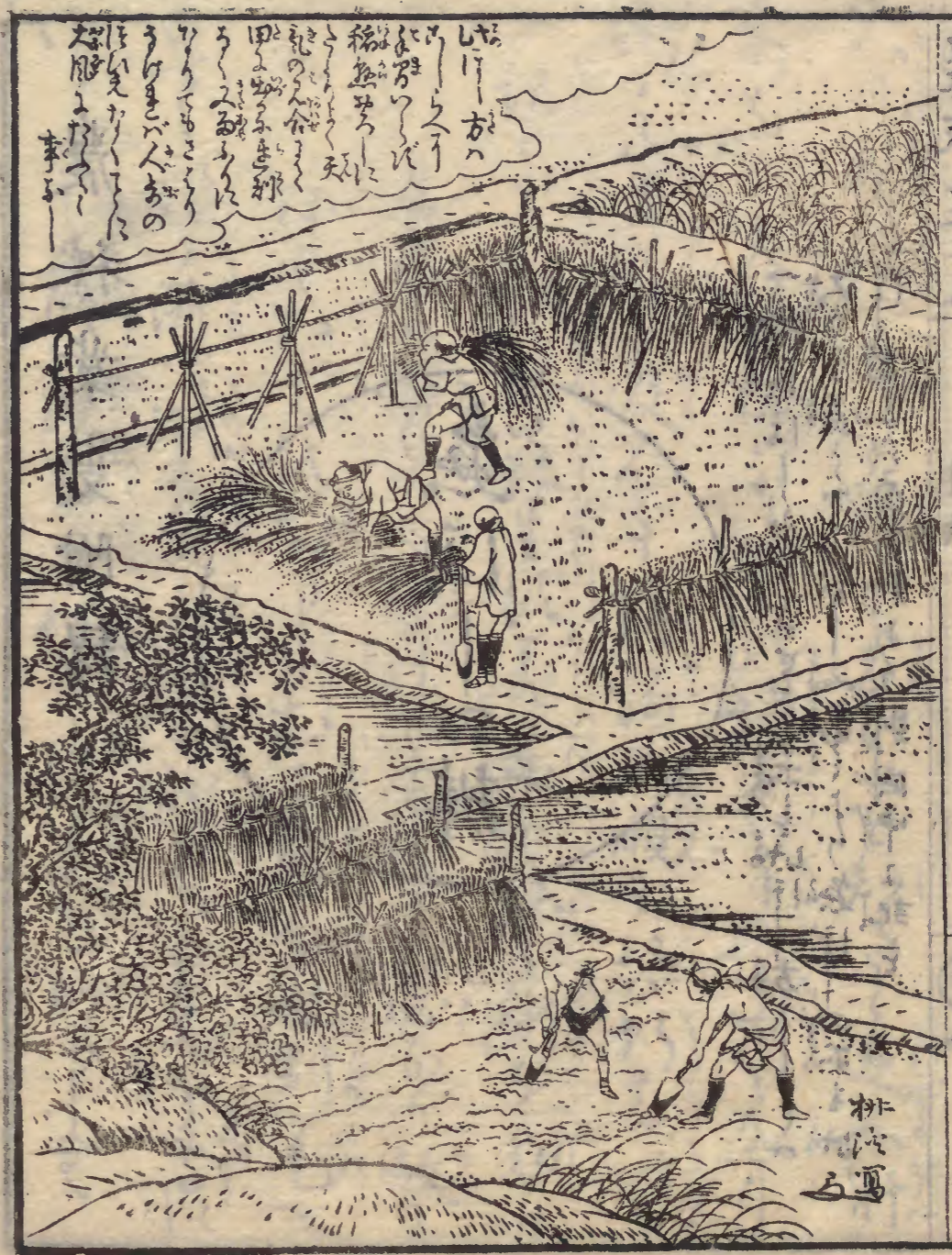
虫の吏 詩句の考
並 去術 並 艸棉地畦刻

大凡耕他カキのカキ変カキ料カキを免カキりて知カキる是カキ又肝カキ
 要カキあり夫カキ竹カキ棉カキをカキ培カキ養カキ入カキ力カキをカキ
 漸カキ出カキ盡カキ也カキ及カキ人カキをカキ培カキ不カキ順カキ也カキ此カキ好カキ子カキのカキ世カキ也カキ
 小カキ記カキをカキ以カキてカキ地カキ生カキじカキる是カキをカキ保カキくカキ術カキをカキ知カキい
 るカキ唐カキ民カキのカキ勞カキ果カキもカキ空カキしくカキ思カキふカキ故カキに
 是カキをカキ保カキくカキ以カキてカキ保カキつカキるカキ又カキ時カキ旬カキ畦カキ割カキをカキ
 專カキしカキ保カキつカキ所カキ以カキてカキ考カキへカキあカキりカキ是カキをカキ以カキてカキ保カキつカキるカキ
 保カキつカキ所カキ以カキてカキ保カキつカキるカキ依カキつカキ併カキ是カキをカキ知カキりカキてカキ

農稼業書附録

無ぼりの辨

一 稲無ぼり
 大凡稲無ぼりとは、田の肥力不足、或は水不足、或は日照不足、或は病害虫によるものである。其の辨は、稲の生育が正常に進行せず、葉が黄化し、根が腐敗し、最終的に稲が倒伏するに至る。是れを無ぼりと呼ぶ。其の治法は、田の肥力を回復し、水を十分に与え、日照を確保し、病害虫を駆除することである。



いりか
 稲刈り
 田舎
 水車
 舟
 橋
 山

耕田

爰に因ては一方は祖父の志を継生涯此
 撰りて亦の農の世より老るは永世不朽の寶
 ならんといはれどい。若人へ口授するにるを理
 腹。書ふ著るに若人たるに農人たるに。此
 稿の無かよおつ。是をせざる不た。たつと
 みてい。○たて○せも。道具の費する無
 にく居ての。麦また子。胎を忍ぶ。つり。昔
 けり仕立り。今更。も。と。り

たりと種々んとあし。利と解さし。國せも。さし
 そ。い。に。あ。し。又。賢。方。の。人。と。古。代。も。礼。義。の
 富。足。の。ま。り。盜。賊。と。貧。窮。の。お。も。い。ふ。い。ふ
 ぶ。く。衣。食。を。り。ぬ。ま。い。自。然。と。人。の。心。も。正。し。く
 志。ま。り。礼。義。を。ま。り。恥。と。知。り。孝。弟。乃。道。も。教
 べ。し。と。知。り。の。理。也。希。と。此。農。術。の。ま。り。ま。り
 け。り。農。功。の。益。と。わ。り。う。は。実。上。よ。り。ま。り。ま。り
 ち。う。ん。と。の。難。う。あ。し。ん。殊。よ。け。は。ま。り。ま。り。

天地の心をたもてけり。世は豊より乏なるを立
 うれば。んあしん人権。是と用いざしん人か。い
 う。ても。祖。又。が。志。と。立。た。し。と。し。り。國。を。り。此
 方。實。は。出。し。國。の。ど。く。無。ほ。し。ふ。と。り。小。造。作
 ち。に。し。は。工。ま。し。又。農。人。亦。告。て。曰。是。や。ま。り。く
 り。示。の。無。ほ。し。の。水。を。深。田。に。ま。り。と。り。示。し。て
 び。て。し。り。の。用。由。示。の。杭。本。稻。無。の。竹。ま。り。殊。亦
 作。多。と。農。家。又。の。遠。田。は。好。ま。り。と。り。ま。り。

又まきくねは猪よあまくとくするところを前よ是は
 ぶね。くねは何の裏なき仕方あり。先一五を
 田と四角く見まば七八間四方あり。け
 田方とくぐりてえん。そ又九七十間程もあじ。
 田は大小あつてもとらへし長田よりうづらば。
 る程の長短大概おのく是も准ど一。又一五の
 橋は一把づらるるに。満作の橋より十間余
 のところ。ち程けくつた。田のくく田の隅よ。

又尺余の杭と土まよ建並雨の目或をしまくし
 田小魚して縄と拵並。四角の杭本ふ右のまいと
 極く強く。志の解ぬやうに結付。をるく細き
 田又尺ほどの竹を杖とけうとく。一
 林とつしやうり。繩のよまを那ゆなう。け竹九八十本
 まく十ちちり。志うし。一五の田は橋魚入用の品杭
 には竹八九十本。縄又十間余。くみたるめれ。好
 けとくも。多くの費ちる。く。又地ま。た。家

かりとも、け積りてそへの造作もあつた。又
 遠田ふとも、つとも、杭竹縄一反分け、つとも、
 是に、ちつとも、つとも。又、目赤の利と。又、ま、くの延、
 調、費、も、つとも。を、捕、内、小、屋、を、干、場、も、つとも、
 相、夕、は、一、入、の、世、活、も、つとも。諸、作、も、つとも、新、向、を
 供、二、三、日、の、あ、つとも、は、新、向、満、熟、の、時、と、つとも、
 元、氏、又、合、と、つとも、つとも、つとも、
 つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、
 つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、

三方、繩、と、つとも、刈、日、稲、の、つとも、無、ほ、つとも、
 仰、日、地、より、地、つとも、つとも、つとも、
 一、方、は、あ、つとも、干、つとも、た、つとも、一、反、の、地、つとも、九、畝、
 つとも、地、つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、
 つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、
 つとも、祖、父、が、記、つとも、つとも、無、干、の、種、先、と、つとも、
 つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、
 つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、
 つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、つとも、

ちりり上米あがりまいよりなり。先第一さきだいいち御上納ごじやうなうしてこれのこのぐら
 別米べつまいもりりなり。又御用米ごようまいとして中付ちゆうつけるは益えき
 御掃米ごほうまいよりなり。御上納の御益ごえきあり。又農家のうかの
 送付しやうぷしるは升較しやうかうなり。御米の積養米の御遠
 白米しろまいよりなり。多おほくは。肥代ひしろ紙しよりなり。又遠とほ乃
 注しゆあり。飯いひ炊いくはふゆとして中ちゆうよりなり。米もりり
右米よりなり。米こめも横よこよりなり。一年いちねんとよりなり。又莫大もくたの
可なり。余あまもも横よこよりなり。一年いちねんとよりなり。又莫大もくたの
しるよりなり。米こめも風かぜとれよけは益えきなり。候たうらうと

しては米こめ小虫せうちゆうの付つける大おほく功こうあり。又外あひ米まい
 の性しやうより力強ちからちやうけ多おほく用もちとかり。得失とくしつのちげ
 かがんかかんよりなり。又繩しやう流りゆう送しやう式しきの草履そうりやう茶鞋ちやがし牛馬うまの
 背せ影かげのしり中ちゆうよりなり。又外あひ米まいとよりなり。又
 かやの遠とほよりなり。又中ちゆうよりなり。又外あひ米まいとよりなり。又
 りりして米こめの考かんがへるよりなり。猶余なほあまりハ賣うて用もちは
 達たつよりなり。又價あひよりなり。又益えきあり。又外あひ米まいとよりなり。又
 方かたよりなり。又種かよりなり。又精せい気きよりなり。又米こめに光澤こうさくより

目方からく。升目とく。春つた。煮
 婦人。又米に虫の付。中。葉も性。く
 儀。して。生。乾。田。干
 の付。お。無。干。干
 味。又。其。上。の
 も。時。空。日。中。時。刻。梅。日。延。又
 暗。日。夜。亮。か。く。

別。旬。ぬ。け。長。雨。日。暗。と。ま。ら
 う。思。い。の。外。葉。も。腐。性。悪。あ。り。時。風
 る。小。達。く。稲。う。く。叔。わ。く。人。出。て。用。ふ。と。は。
 或。の。零。落。して。と。り。を。外。諸。よ。換。ま。し。種。の。よ
 け。ほ。一。方。の。葉。よ。り。と。く。別。旬。と。も。づ。と。み。う。は。ゆ
 毛。お。の。損。亡。を。く。ま。し。希。の。毛。と。用。い。給。う。天。意
 と。い。ふ。く。世。自。他。の。益。と。う。く。世。は。娘。一。粒
 と。い。ふ。と。を。く。ま。り。て。凶。年。の。種。と。後。よ。く。ぬ。だ。し。

その利の廣大なるを前々述ぶるが如し米と
 といふ業のいかに大なる益ありけりや
 用いざれば天の賜とすべし
 我五く世に傳ふ鳴呼がけは
 人の心にも世に述ぶるを志し。干時文に
 年辰辰初秋湖東兒島徳重於大坂今宮新永業店記之
 け辨は推し置るは... 農人の廣大の無... 知りし干方と
 りよふねとありて... 盗らざらん村中或は隣村又は田
 ふらふの者ありて盗らざらん... 盗らざらん... 盗らざらん
 毎歳おとらるるを村中合二回よまらん法と紀とのありき

千徳米之積書

一回を及にき斗入升と見て

百町ニ 百入拾石

千町ニ 千入百石

き方町ニ き万又千石

十方町ニ 拾入万石

百万町ニ 百入拾万石

但し及にき斗完しとも百万町小

百万石の國益なり

右に積りしは... 國中... 廣大なる得るなり

米並遠く益ハ石付式と云ふに

千石ハ 銀貳貫目 壹万石ハ 銀貳拾貫目

十萬石ハ 銀貳百貫目 百萬石ハ 銀貳千貫目

是ト又米石付銀をかく並遠と見ても百萬石

少シ浪子貫目の國益なり

右ノ積リ書を先ニ披テ後書ニ志スルハ如キ也

多クも爰小出ノ勘考の目當ト云得米田

を及ト云斗入升と云キを造ナシト云得なり

米此並らづいも石付式と見付を云キ又

内端の積りなり

終

皇朝戦略編

尾張園陵宮田先生著

全部十五卷

前帙八冊 後帙七冊

此書者遠ク天慶ノ始平ノ將門ノ亂ヲ東國ニ作セシニ始近ク寛永ノ末鳥原ノ賊徒ノ西海ニ殊滅セラレシニ至迄前後凡七百有余年ノ間名將良主英雄豪傑ノ奇戰妙畧ノ跡ノ法則トナルヘキヲ數多ノ史乘ヨリ撰ヒ出シ武學ノ用ニ備ヘタル者ニシテ實ニ兵家ノ龜鑑タルト云ヘシ名將ノ勝ヲ製スル術ノ覺リ又國家興廢ノ由ル所以テ知ルヘキ者ハ此書ニ如ク無レト云

大阪書肆 心齋橋通北久堂寺町 河内屋源七郎梓

